

大学生活におけるリスクマネジメント マインドセット教育の設計と評価

前川 碧井¹ 山内 正人^{†1}

概要：2019年4月、従来の総合大学と専門職を育てる大学を合わせた大学である専門職大学・専門職短期大学が創設された。卒業要件単位の約3分の1以上は実習・実技でなければいけないため、学生は1年次から実習・実技の講義を受けるなど高校生までと違い、自分で状況判断をする機会が増える。そのため、早いうちからリスクマネジメントをできるようにする教材があるが、事前にマインドセットを目的とした設計がされていないことが分かった。

そこで、リスクマネジメントができるようになるための設計をした。受講者が個々のリスクに対する対応策を学ぶ前のマインドセットが目的である。また、自分事で考えられるように身近に起こりやすいリスクを網羅的に学ぶが、受講者全員がリスクマネジメントのプロセスを体験することが重要である。

情報経営イノベーション専門職大学の新生を対象に、今回はリスクマネジメントに着目した教材である「お手伝い株式会社」を用いて、大学生活におけるリスクマネジメントマインドセットのワークショップを実施した。ワークショップの前後でアンケートを実施し、受講者の意識がどのように変化したか調査した結果、特に自分でリスク回避行動ができていないと感じている受講者に対して、リスクマネジメントの意識向上を確認した。

キーワード：リスクマネジメント, マインドセット教育, 大学生活

Design and evaluation of educational materials to have a mindset about risk management

AOI MAEKAWA¹ MASATO YAMANOUCHI^{†1}

1. はじめに

近年、55年ぶりの新たな大学制度として専門職大学・専門職短期大学が誕生した[3]。この専門職大学・専門職短期大学は、実習・実技を通して実践的な職業教育だけではなく学術重視の専門教育も行う教育機関である。大学生は自分で履修登録を行うが、それに加え実習・実技の講義の約3分の1以上修得することが卒業要件単位となっているため、早いうちからリスクマネジメントして備えなければいけない。

リスクマネジメント教材には、野外実習などの題材でリスクと個別の対応策を学ぶもの[4]やリスクマネジメント

の概念形成をするもの[5]などが存在する。中には小学生向けの教材[6]もある。これらは、リスクマネジメントの重要性を学ぶ教材であり、考えられるリスクに対してどのような対策を取るべきか具体例を用いて学ぶことができる。

このように様々なリスクマネジメント教材があるが、その前段階としてのマインドセットを重要視した設計がされていないことが分かった。しかしながら、リスクマネジメントを身につける前にマインドセットを適切に行うことでよりリスクマネジメントの重要性について効果的に学ぶことができる。

このことからリスクマネジメントができるようになるためのマインドセットを目的とした設計を行い、当事者意識に変わるように身近なリスクを取り上げた。さらに、ワークショップとして情報経営イノベーション専門職大学の新生197名を対象に実施した。

¹ 情報経営イノベーション専門職大学
i University

^{†1} 現在、慶應義塾大学
Presently with Keio University

2. リスクマネジメントマインドセット教育の必要性

2.1 大学・短期大学と専門職大学・専門職短期大学の違い

近年、55年ぶりに新大学制度 [3] である専門職大学・専門職短期大学が開設された。1でも触れたように専門職大学・専門職短期大学は学術重視だけではなく、卒業後即戦力になるような職業重視の専門教育を学べる教育機関である。また、関連する他分野の教育も学ぶことができるうえ、4割以上の専任教員を実務家教員として配置することや600時間以上の実務実習が義務付けられている。

そのため、情報経営イノベーション専門職大学では1年次からグループで身近な街や人の課題解決をビジネスプランで考え、ピッチを行う講義があり [1]、開志専門職大学では、1年次から実際の企業現場で業務を体験する企業内実習を行う [2]。このように専門職大学の学生は1年次から専門的知識を学び実践を通して学ぶ。さらに、この情報経営イノベーション専門職大学や開志専門職大学では、起業に関連する講義を行っており、起業を目指す学生が多く在籍している。起業に関するリスクは常に多岐にわたるため、日常的なリスクマネジメントが必要不可欠である。

2.2 大学と高等学校までの違い

高等学校は義務教育ではないが選択科目数が少ないこともあり、大半の高等学校で卒業要件単位の履修登録は生徒自身で行うことは少ない。特に時間割や単位管理などは教員が管理している生徒も少なくない。ましてや小学校や中学校は義務教育であるため、高等学校よりも生徒自身で単位管理を行うことは全くない。例えば、出席日数や課題提出が滞っている生徒には担任の教員などが直接このままでは卒業できないことを教えてくれるため、自分が気づかなくても卒業できるか危ない状況であることを教えてくれる。

しかしながら、大学では履修登録を各自で行うため、時間割や卒業要件の単位管理を自分で考えて決断しなければならない。その中でも卒業要件単位は必修科目、選択必修科目だけでなく、選択科目も修得する必要がある、科目によって特定の学年のみ受講可能な講義も存在する。言い換えれば、大学は4年間で修得する単位を考えながら履修登録をする。

このように、大学では高等学校まで教員などの周りの大人が管理していたことをすべて自分で行う必要があり、高校生よりもリスクマネジメントを行う重要性が高まる。

2.3 課題

2.12.2で挙げたように高等学校までと違い、大学では自身のことは自ら責任をもって決断していく必要があり、1年次からでもリスクマネジメントを適切に行えるようにしなければならない。そのためにもリスクマネジメント教育

を早いうちから実施し、身につけられるようにすることが課題である。学生自身が早いうちにリスクを意識して行動するようになれば、自己防衛できる学生を育てることができる。

3. リスクマネジメントマインドセット教育

3.1 リスクマネジメントが出来るまでのフロー

まず、リスクマネジメントが出来るようになるフローとして

- (1) 考えうるリスクとその確率の分析
- (2) 生じた場合に想定される被害の回避・低減する手法の検討・比較

- (3) 実施した対策についてのリフレクション

という流れを繰り返していく。そして、徐々にリスクアセスメントやリスクヘッジを体験的に学び、リスクマネジメントを日常的に実施していくようになる。

リスクと対応策は教材などを通して学び、同等の環境になった際にリスクマネジメントを実行していく。想像力を養うことでリスク分析や実生活に置き換えて考える力が身につき、より一層自分の身を守ることができるようになる。

3.2 関連研究

リスクマネジメント教材は特定の題材の網羅的なリスクと対策を学ぶもの [6] や概念形成を行うもの [5] など多く存在する。これらは、具体的なリスクに対する対処法を学び、比較して最適解を考えていく教材である。

垂澤は、学生生活リスクに関する教材 [7] を用いて、すぐろく形式で大学に入学後に体験すると想定される内容をグループで解決策を話し合い、優れている解決策2つ、みんなに聞いてほしい解決策2つ、納得のいく解決策が出なかったマス目2つの3項目2つずつを最後に発表する授業を行った。マス目には「次の授業は2号館、しかし場所が分からない」、「台風が近づいている。今日の大学の授業はあるだろうか?」といった筆者の授業を受講していた大学院生の実体験が取り入れられている。その結果、「リスクマネジメントの促進」、「解決策の多様性への気づき」などが参加者の感想からわかった。

また、川村は [4] を用いて、写真を用いて受講者に3つの質問をし、記述式の回答を募った。質問内容はとある写真からどのようなリスクを見出させるか受講者に項目を挙げさせ、そのリスクを踏まえてどのような注意をすべきか尋ね、現場監督として注意すべき事項を問うものであった。最後の現場監督としての注意事項は議論の内容と関係が薄いため結果は取り扱っていない。その回答結果より自然災害への関心は高いが防災行動には結びついていないことが分かった。

これらの教材は具体例をもとに受講者のリスクマネジメン

ト力をはかりつつ、どう対処すればよかったか他者との意見交換で理解を深めることができていた。しかし、両教材の結果では「同じ状況になったら学んだ対処をしたい。」というような感想が見られた。

表1にこれらの要素についてまとめる。各教材の説明に記述があるものを○、教材としては記述していないものの教材を通すうえで受講者がその要素について扱われていると考えられるものを△、記述がなく教材を通して扱われないと考えられるものを×とする。

3.3 マインドセットの重要性

3.2で提示した教材らは教材を通してリスクマネジメントの概念が形成されていくように設計している。つまり、マインドセットをしてから取り組むことは想定されていないように考えられる。しかしながら、リスクマネジメント教材を用いる前にマインドセットできているかどうかは重要なポイントである。なぜなら、その違いによって効果に差が生まれてしまうのである。というのも、最初に具体的なリスクを学んでも「まったく同じ状況にならなかつたらいつも通りの生活を過ごせば問題ない。もし、そうなったら学んだ対策すればいいだろう」というような安直な捉え方をしかねない。

日常的にリスクマネジメントを行わない場合の危険性について理解したうえで、具体的なリスクとその対応策を学ぶことで、より効果的に学ぶことができる。リスクマネジメントが出来るようになるうえで最初に楽観的な思考にならないためにも、なぜリスクマネジメントをしなければならないのか、を理解させる必要がある。

3.4 課題

3.3でも述べたように、リスクマネジメント教材はリスクマネジメントのプロセスを学ぶことに重点を置かれていることが分かった。そのことから、学ぶうえで重要なポイントであるマインドセットを早いうちに行うことが課題だ。多数あるリスクマネジメント教材を効果的に学ぶためにも、事前にマインドセットを行うことで今まで自分でリスク回避行動をしてこなかった人にもリスクマネジメントの重要性について早いうちに理解させることが必要である。

4. リスクマネジメントマインドセット教育の設計

4.1 リスクマネジメントマインドセット教育の目的

このリスクマネジメントマインドセット教育の目的は、リスクマネジメントを行う前段階としてマインドセットを行うためである。そのため、早い段階でリスクマネジメントを身につけるための最初のステップである。このマインドセットを最初に行うことで3.3で示した通り、リスクマ

ネジメント教材での学びをより効果的にするためである。

4.2 リスクマネジメントマインドセット教育の手順

まず、リスクマネジメント教材で具体的な対応策などを学ぶ前にリスクマネジメントを行わないとどうなるかを説明することに重点を置いたワークショップを行う。その後、リスクマネジメント教材を用いての詳細なリスク分析や対応策について学ぶ。

また、マインドセットにはリスクマネジメント教材を用いての説明となるが、重要視する点はリスク分析や具体的な対策ではなく、対策しなければ被害がでるという意識である。そのため、受講者の意識が変化するように多くのリスクについて説明する。つまり、3.1のフローにマインドセットを以下のように追加し、(2)(4)を繰り返してリスクマネジメントを身につけていく。

- (1) リスクマネジメントのマインドセット
- (2) 考えるリスクとその確率の分析
- (3) 生じた場合に想定される被害の回避・低減する手法の検討・比較
- (4) 実施した対策についてのリフレクション

5. ワークショップ実施概要

今回、2022年4月6日情報経営イノベーション専門職大学の新生197名を対象にワークショップを実施した。また、情報経営イノベーション専門職大学では2.1で挙げたように起業を目指している学生もいるため、今回はすごろく形式のリスクマネジメントに着目した「お手伝い株式会社」[6]を用いることにした。

この「お手伝い株式会社」とは、網羅的な経営リスクを日常生活のリスクマネジメントに置き換えており、知識がない受講者でも学べるすごろく形式の教材のことである。さらに、すごろく形式の教材であるため運要素の部分もあるが、企業発展の流れが含まれているため、想定した学びを全体で共有することができる。このことから共通のリスクマネジメントの説明ができ、マインドセットを持たせられると考えたからだ。

さらに、今回のワークショップは新生のオリエンテーションの一部であり、ワークショップの時間が40分程度で実施するため、マインドセットできたかを確認するために事前事後アンケートを記入してもらった。

5.1 ワークショップ当日概要

今回のワークショップでは受講者の197名全6クラスを1クラス7グループ、1グループ4,5名に分け、午前中と午後で3クラスずつに分けて実施した。また、講師1名、補助講師1名、ファシリテーター2名、合計12名で運営し

表 1 リスクマネジメント教材の要素

教材の題材	マインドセット	リスク分析	確率の検証	被害を回避・低減させる手法の検討	対応策の比較	リフレクション
学生生活	X	○	△	○	△	○
野外実習	X	○	△	○	△	○

た。

しかしながら、今回使用する「お手伝い株式会社」は小学生向けとなっているため、大学生向けにレベルを合わせることで、さらには、ワークショップの時間が短いため、その時間内でマインドセットすることの2つの工夫を行った。



図 1 ワークショップ実施中の様子 1

伝いをするようになり、リスク対策を講じるゾーンが成長期、その後にリスクに直面する発展期という形になっている。さらに取り入れている経営リスクは業務リスクや戦略リスクなど8種類あり、日常的なリスクも健康面や突然の出費など3種類ある。このように1回のワークショップで様々な場面でのリスクマネジメントを体験することができる。



図 3 「お手伝い株式会社」のすごろく台紙



図 2 ワークショップ実施中の様子 2

5.2 タイムスケジュール

今回のワークショップの流れを表3に示す。また、このワークショップの事前と事後にアンケートを実施し、マインドセットができたかを確認するが、その時間はワークショップの時間外に記入してもらった。

5.3 ワークショップ当日の工夫

5.3.1 教材のレベルを合わせる工夫

5.1でも挙げたように「お手伝い株式会社」は小学生向けのため、取り上げられている経営リスクが日常の場面に例えられており、小学生でも簡単に理解できるようになっている。そのため、専門的な知識を必要としない教材といえる。今回は、リスクマネジメントをしなければ被害を受けることを体験的に学びながら、そのリスクの例えを用いて、受講者が自分事で考えられるように身近なリスクとして単位や課題についても挙げた。

5.3.2 短い時間で行う工夫

5.1でも述べたようにワークショップの時間が40分と限られているため、マインドセットを確認するための事前事後アンケートをワークショップの時間内ではなく、事前アンケートは前日からワークショップ実施前、事後アンケート

5.1.1 「お手伝い株式会社」の概要

今回ワークショップで使用した「お手伝い株式会社」は小学生向けのすごろく形式のリスクマネジメントに着目したアントレプレナーシップ教育教材である。すごろくのゴールとしては、お手伝いをしてリスクマネジメントを行いながらお金を貯め、自分の渡したい人にプレゼントを購入して渡すことである。

また、全体の流れが企業発展と同じで一人でお手伝いをしてお金を貯めるゾーンが黎明期、途中で妹と一緒にお手

表 2 「お手伝い株式会社」のリスク

リスク	マスの内容
サイバー攻撃	パソコンにウイルス感染が迫っており、セキュリティソフトを持っていれば感染せずに済み、持っていなければ感染し、除去するのにお金を支払うことになる。
ネットバンクのシステム障害	ネット銀行にお金を預けたがシステム障害により引き出せなくなるが、予備のお財布を持っていればリスク分散しているため必要なお金を用意できるが、持っていなければ節約し、お手伝い代が減ることになる。
法務リスク	妹が嘘をついてお金を多くもらおうとしており、教育カードを持っていれば正直に報告し、持っていなければ1回休みとした。
情報漏洩による SNS 炎上	妹が勝手に SNS に載せられたくない写真をアップロードしようとするが、教育カードを持っていれば考え直しアップロードを辞め、持っていなければ SNS に投稿し炎上、対応費を支払う。
財務リスク	お手伝い代をくれる母親が財布を落としてしまうが、予備のお財布を持っていればリスク分散しているためお手伝い代を用意できるが、持っていなければ節約し、お手伝い代が減ることになる。
リコール	掃除をしたものの綺麗になっていない部分があり、家事スキルカードかスペシャルな道具カードを持っていればお母さんが来る前に掃除できお手伝い代をもらえ、持っていなければ綺麗にできなかったためお手伝い代はもらえない。
ネット障害	電話をする予定だが Wi-Fi の調子が悪く、主人公の端末ではネットに繋がらない状態で、携帯カードを持っていればネットワークに繋がることができ、お駄賃をもらえるが、持っていなければネットワークに接続できないため何ももらえない。
ライバル会社の出現	弟に家事を真似されるが、家事スキルカードかスペシャルな道具カードを持っていれば差別化を図ることができお手伝い代をもらえるが、持っていなければ弟にお手伝いを取られお手伝い代はもらえない。
人的ミス	お手伝いを頼まれていたが、友達に遊びに誘われて忘れてしまい、お手伝い代がもらえない。
突然の出費	予定がこなせなくなったときに、代わりにしてくれていたことに対して謝礼をだす。
体調不良	急に熱がでて休みことになり、薬代を支払う。

表 3 ワークショップ全体の流れ

内容	時間
導入	5分
「お手伝い株式会社」	30分
解説とまとめ	5分

トはワークショップ後の当日中に回答してもらった。また、「お手伝い株式会社」の想定は約30分とされているが、大学生のためコマを読むスピードやリスク対策を講じるゾーンでの選択の早さなど想定時間よりも早く終わる可能性が高いと推測した。

5.4 事前事後アンケート設計

今回は受講者がマインドセットできたか確認する目的で、ワークショップの開始前と終了後に事前事後アンケートを実施した。また、前日や帰宅後に記入する可能性があるため紙ではなく、Google フォームを用いて集計した。内容は以下の通りである。

- 普段リスクマネジメントをおこなっているかの選択式の1問（事前アンケートのみ）
- 未来におこりうるリスクのために今なにをするかの選択式の5問
- 現在にリスクを目の当たりの状態で今なにをするかの選択式の4問

- ワークショップの感想と学びについて記述式の2問（事後アンケートのみ）

事前アンケートと事後アンケートで共通の9問を出題することでマインドセットができたかどうか確認する。各質問2択4択の選択肢を自分で対策するもの、他人が対策するもの、対策不十分なもの、対策していないものとして評価した。

普段リスクマネジメントをおこなっているかの質問では、

- 自分で考えてリスク回避行動をする
- 人に言われてする
- 人に言われてもしない
- 考えたこともない

と4択で、自身の行動について当てはまることを回答してもらった。

ワークショップを行う前から自分でリスクマネジメントを行っている学生もいるため、事前アンケートで選択した回答が事後アンケートでよりリスクマネジメントをしななければならないと意識のもと自分で対策できるように変化した場合をマインドセットが行われたと評価する。また、2-4の質問についてはどこまで公開を限定するか明記していなかったため、今回は使用しないで評価する。以下に

事前事後アンケートの共通の質問を示す。

- 1-1 明日は台風の予報だけど、1限(9時開始)がある。
- 1-2 課題の期限が明日の23:59までだ。いつ課題に取り組む？
- 1-3 自分で講義を履修しなければいけないがよくわからない。
- 1-4 友達と遊びすぎて貯金がなくなりそう。
- 1-5 明日は大事な予定があるけど、ちょっと体調が悪い気がする
- 2-1 前半の講義をサボってしまい、もう休めないのに体調不良になった。そのため、出席出来ず単位を落とした。
- 2-2 アルバイトを優先していたら進級出来なかった
- 2-3 アルバイトの時給が少ないから沢山シフトをいれないといけなくなった。
- 2-4 入学式で仲良くなった友達とご飯を食べて楽しかったので、友達との写真をSNSに載せたら怒られてしまった。

上述した質問番号1-1から2-4までの選択肢を以下に示す。なおそれぞれ(自分で対策する),(他人が対策する),(対策部十分),(対策しない)に対応する。また対応する選択肢がない場合は空欄とする。

- 1-1 (早起きして明日に備える), (), (いつも通り過ごす), (きつと休講になるのでよく寝る)
- 1-2 (今日), (明日の午前中), (期限の1時間前), (めんどくさいので諦める)
- 1-3 (頼れる人に聞く), (家族にやってもらおう), (自分でなんとか決める), (放置する)
- 1-4 (アルバイトを増やす), (親に借りる), (友達に奢ってもらおう), (なくなったら考える)
- 1-5 (今日は早めに寝て、明日に備える), (), (「病は気から」というので、気にせず過ごす), (むしろ夜更かしして明日の予定の準備をする)
- 2-1 (サボらずに全講義に出席すれば良かった), (), (1日だけサボらず出席すれば良かった), ()
- 2-2 (単位取得できる出席日数を確認する), (), (), (収入がほしいから留年は仕方ない)
- 2-3 (アルバイトを時給が高いものに変える), (), (卒業できるぎりぎりまでアルバイトをする), ()
- 2-4 (), (友達でもちゃんと許可を取ってから公開すれば良かった), (公開する範囲を限定すれば良かった), ()

6. 結果と考察

6.1 ワークショップ実施結果

今回、情報経営イノベーション専門職大学の新生197名を対象にワークショップを行ったが、そのうち16名が遅刻・欠席であったため、その分の人数を引いたの結果と

する。

5.4の事前アンケートの普段リスクマネジメントをおこなっているか4択の質問での回答数は以下の通りである。

表4 事前アンケートの4択質問の回答

自分で考えてリスク回避行動をする	131名
人に言われてする	30名
人に言われてもしない	1名
考えたこともない	5名
合計	167名

また、自分で考えてリスク回避行動をする学生はリスクマネジメントを身につけていると判断し、人に言われてする、人に言われてもしない、考えたこともないと回答をした学生36名の回答を以下の通りまとめる。また、これらの学生を自分でリスクマネジメントを十分に行えない学生と判断する。これは、36名中より良い判断に変更した人数の割合である。

表5 自分でリスクマネジメントを十分に行えない学生の回答

質問番号	より良く変化した人数	変化した割合
1-1	9名	25.0%
1-2	12名	33.3%
1-3	3名	8.0%
1-4	4名	11.1%
1-5	4名	11.1%
2-1	7名	19.4%
2-2	0名	0%
2-3	7名	19.4%

6.2 考察

5の結果より、ワークショップを実施する前にリスクマネジメントを十分にできていない学生に対してマインドセットが確認できた。特に5.4の1-1、1-2の質問について多くの学生が回答がリスク回避する選択に変わっていた。また、これらの質問の回答は自分でリスク回避行動をすると答えた学生も含めて166名の全体のうち、1-1は20.4%が、1-2は22.8%がより良い判断ができるようになっていた。

この2問については選択肢からも分かる通り、時間軸を取り入れられており、対応策の比較がしやすいためにより良いリスク対策を講じられるようになったと考えられる。しかし、同じように時間軸を取り入れた1-5が1-1.1-2ほどの変化がなかったのは、「ちょっと体調が悪い気がする」と詳細を述べていなかったため、解釈に違いが生まれたのではないかと考えられる。

反対に、2-2の回答で変化した人数が圧倒的に少ないことが分かる。これは、??で示したように、選択肢が自分で対策をするものと対策をしないものの極端な2択であった

ため、自分でリスクマネジメントを十分に行えない学生たちも事前アンケートできちんと対策をするように回答した学生が大半を占めたのではないかと考えられる。

中でも、1-2、2-1、2-3の質問については自分でリスク回避行動をする学生130名中良い判断を行えるように変化した割合が自分でリスクマネジメントを十分に行えない学生36名中良い判断を行えるように変化した割合よりも約10%以上も増加していた。これらの質問は質問内容と選択肢の内容に曖昧性が少なく、齟齬が生まれにくいいため、自分がリスクマネジメントを十分に行えない学生も、対応策を比較するうえで判断しやすかったのではないかと考える。

さらに、各質問で1つ以上良い判断に変化した学生は全体で89名、そのうち自分でリスクマネジメントを十分に行えない学生は24名であった。これは自分でリスクマネジメントを十分に行えない学生36名のうち66.6%もの学生がリスクマネジメントを行わなければならないと意識した結果である。また、自分でリスク回避行動をする学生の50%の学生がより良い判断をできるようになったことが分かる。

事後アンケートの記述式でのワークショップに対する感想と学びから一部抜粋して紹介する。これらは自分でリスクマネジメントを十分に行えない学生の感想と学びである。

- リスクは少なくともあると考えて事前に対策することが大切だと思った。
- 万が一を想定して保険をかけておくことは大切
- とりあえず用心することに越したことはない。
- リスク管理は大事
- リスクに対する予防をしっかり自分でしていけないと、今回のすごろくみたいに金銭面で大変なことになるので、対策をしっかり行うべきだなということを学んだ。

しかしながら、自分でリスク回避行動をする学生の感想と学びでも、似たような記述があった。これは、以下のように自分でリスク回避行動をすると回答した学生にも改めてマインドセットをしたと捉えることができる。

- 損害の大きさや優先順位をつけて対策することが大事だと思った。
- 今後は先に起きそうなことを事前に考え、行動できるようにしたいです。
- 想定外の事態はいくらでも起こりうる。が、予想しておくことで損害を減らすことができる。
- いろんな問題を想定して、対策しておく必要がある。
- 人生に置き換えて考えることができました。

7. 結論

リスクマネジメント教材を効果的に学ぶためにリスクマネジメントマインドセット教育を設計した。情報経営イノベーション専門職大学の新生を対象に、今回は「お手伝い株式会社」を用いてワークショップを実施した。受講者にマインドセットができたかを確認するために事前事後アンケートを実施した結果、自分でリスクマネジメントを十分に行えない学生のリスクマネジメントに対する意識の変化を確認した。さらに、自分でリスク回避行動をする学生に対しても意識の向上を確認した。また、特に自分でリスクマネジメントを十分に行えない学生のうち約6割が9問の質問で1つ以上の回答がより良い判断に変化した。

しかしながら、ワークショップ実施時間が少ないことや事前事後アンケートの質問と選択肢の曖昧性が見られることから、全体の約半数にしか効果がでなかったと考える。その点を変更すればさらに効果的にリスクマネジメントマインドセットを行うことも可能である。

参考文献

- [1] : カリキュラム, <https://www.i-u.ac.jp/academic/curriculum/>.
- [2] : 事業創造学部, <https://kaishi-pu.ac.jp/department/business/>.
- [3] : 専門職大学・専門職短期大学, https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/senmon/index.htm.
- [4] 川村教一: 野外実習時のリスク管理に関する大学初年次生の認識調査結果: 安田ジオサイト露頭を例として, 秋田大学教養基礎教育研究年報.
- [5] 武蔵振一郎: リスクマネージメントの概念形成を目指した授業の開発—ゲーム理論からキャンブルまで—, 授業実践開発研究, Vol. 2.
- [6] 前川碧井: お手伝い株式会社: リスクマネジメントに着目した小学生向けアントレプレナーシップ教育教材の開発と評価.
- [7] 垂澤由美子: 上級生から下級生への学生生活リスクの伝達に関する授業実践の報告: 「すごろく」を用いて, 甲南女子大学研究紀要 (I).